平成二十七年　第七期くまもと俳句ポスト

第七期開函

日本伝統俳句協会評議員　　井芹　眞一郎　選

**特選**

湖朧汀女の気配ありにけり　　　　　　　　　熊本県熊本市　　山﨑綾子

【講評】

　中村汀女は明治三十三年、父斎藤平四郎、母亭の一人娘として江津湖のほとりに

生まれた。結婚後は遠くから故郷や親を思いやる俳句を多く作ったので「江津湖の

汀女」と云われた。今は生家も残されていないが江津湖畔を訪れると、春の朦朧と

した雰囲気も手伝って今にも汀女が佇んで居るように思われたのであろう。「朧」

の季題が動かせない。

**わが輩通り賞**

漱石の所縁の駅舎風薫る　　　　　　　　　　熊本県熊本市　　森本尚子

**入選**

銀杏若葉仰げばせまる武者返し　　　　　　　熊本県熊本市　　野﨑一雄

おしろにはみどりがあふれいきいきと　　　　福岡県久留米市　福田征一

また一片汀女の湖の薄紅梅　　　　　　　　　群馬県高崎市　　吉井巧

**佳作**

露草や一口城主の夫は亡き　　　　　　　　　熊本県熊本市　　木村初子

ジエ―ンズの教え脈々肥後の夏　　　　　　　熊本県大津町　　木庭杏子

草枕辿れば涼し石畳　　　　　　　　　　　　熊本県熊本市　　林田秀久

漱石の降りたる駅舎山笑う　　　　　　　　　熊本県熊本市　　冨士川一裕

桜散る不開門を降りけり　　　　　　　　　　熊本県熊本市　　寺本こう子

一と雨に一と雨ごとに七変化　　　　　　　　熊本県熊本市　　坂本あかり

草千里人馬ともどもかぎろへり　　　　　　　熊本県熊本市　　菊池一郎

球磨川の瀬音激しく明易し　　　　　　　　　奈良県生駒市　　佐々木潤子

春日さす八雲好みの高机　　　　　　　　　　福岡県広川町　　水本艶子

紫陽花や天守めざして子らの声　　　　　　　長崎市諫早市　　麻生勝行

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　投句総数　　　　六二二句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　市外　　　　　　三六三句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　市内　　　　　　二五九句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　開函日　平成二十七年六月三十日